

つながり



母子の命を守る 周産期の連携体制

1-2p ▶ 周産期センターのご紹介

部門紹介／TOPICS _____ 3p

部門紹介／設備のご紹介 _____ 4p

総合医療支援センターからのお知らせ／
我が病院のボランティアさん _____ 5-6p

地域の医療機関のご紹介 _____ 7p

ご自由にお取り
ください

周産期センターの

ご紹介

“赤ちゃんとその家族にやさしい”

病院を目指しています”

産科・婦人科

我妻 理重 医師

周産期センター診療部長
兼第一産科科長
兼第一婦人科科長

小児科

鳴海 僚彦 医師

周産期センター副診療部長
兼第一小児科科長

「サポート体制があるから専門分野に専念できる」

これまででは別々のフロアにあった産科と小児科を同じフロアに設置し、妊娠・分娩・産褥・新生児管理までを連続したひとつのユニットと考え、高度で最新の医療を行うのが周産期センターです。出産はひと月に平均60〜70件行われ、院内で出産した新生児のケアや近隣の病院から赤ちゃんの受け入れも行っています。

「サポート体制があるから専門分野に専念できる」と産科・婦人科の我妻医師。帝王切開での出産時は、必ず小児科医も立ち合います。また難易度の高い出産の場合も、産前から小児科医も連携してケアに当たります。ある意味で産科医自身は出産そのものにより専念して臨むこともできています。

「高い専門性と手厚いスタッフ体制で新生児を守ります」

「小さく生まれた赤ちゃんや病気を持った赤ちゃんのケアをするNICU（新生児集中治療室）が2014年にスタート。約20名のスタッフが所属し、ケアに当たっています。NICUは一般病床

同じフロア、綿密な協力体制。



小児科のサポートを受けて
どんな出産でも
乗り越えます

と比較して、患者さん一人当たりの看護スタッフが
多く、新生児集中ケア
認定看護師も1名います。」
と、小児科の鳴海医師。
当院NICUでは、妊
娠30週以降の早産児、新
生児呼吸障害などを主に
診療しています。より未
熟な赤ちゃんや手術が必
要な赤ちゃんは、仙台市
内のNICUと連携して
対応しています。

「制度を利用して、
家族みんなが健やかな
出産・育児環境を」
これから出産される方
へお伝えしたいことは
「現在は、届け出で出産
費用の助成金を利用する
ことができ、あまりお金
がかからずに出産をする
こともできます。経済的
な理由から、まれに飛び
込み分娩をする方もいらっ



赤ちゃんのご両親にとって、
ベストな医療を
目指しています

しいますが、母子とも
に大変危険ですのでお止
めください。妊婦健診の
受診や申請手続き方法な
ど、外来などでお気軽に
相談をしてください。」
と我妻医師。
また鳴海医師は「母乳
育児を支援することを通
して、単に栄養としての
母乳を与えるだけではな
く、母子の絆を深めてい
きたいと考えています。
赤ちゃんと家族を中心に、
多職種で支え合うNIC
Uを目指しています。」
と話します。

また、宮城県北部全体
の高度な周産期医療の受
け入れも行う「地域周産
期母子医療センター」と
しての機能も務め、地域
医療の柱を担っています。

+

当院の受診について

当院の受診には、お近くの保険医療機関からの紹介状と事前の診察予約が必要です。

小児科の受診には、予約は不要ですが、できる限り紹介状をお持ちください。

各種検診結果をお持ちの方のうち、精密検査が必要と判定された方で当院を受診希望される方は、予約センター（0120-003-934）までお問合わせください。

担当医

産科	我妻 理重 (周産期センター診療部長)
	松本 大樹 (科長) 岩間 憲之 (副科長)
	鏡 友里恵 (医員) 宮野 菊子 (医員) 齋藤 淳一 (医員)
小児科	鳴海 僚彦 (周産期センター副診療部長)
	有馬 正貴 (科長) 工藤 充哉 (科長)
	宮野 峻輔 (医員) 齋藤 秀憲 (医員)



受付時間

産科	初診	8:00~11:00
	再診	7:30~11:00
小児科	初診	8:00~11:30
	再診	7:30~11:30



「本院看護部4階東病棟」

患者さんの病気が快方に向かうため、院内ではたくさん職員が働いています。その様子を紹介します。

4階東病棟は周産期センター内にある産科病棟です。

主に入院しているのは、分娩（ぶんべん）前の妊婦さん、産後のお母さんと赤ちゃん、切迫流産、切迫早産で治療中の患者さんです。

当院では、地域周産期母子医療センターの役割も担っているため、母体合併症や胎児異常などの問題を抱えた患者さんの入院が多いのが特徴です。

平成27年からは超緊急時の対応として、手術室・小児科と共同で「グレードA帝王切開術」のシステムが稼働しました。「グレードA帝王切開術」とは、帝王切開の緊急度が最も高いものをいいます。

また、赤ちゃんにとつての完全栄養である母乳育児支援も行っています。現在は外来母乳育児指導・分娩（ぶんべん）後の早期母子接触・退院一週間後健診と妊娠中から産後まで切れ目のない母乳育児支援に力を入れています。

妊娠、分娩、母乳育児に関する疑問などがありましたら、お気軽にご相談ください。



外来保健指導の様子

妊娠各期の保健指導を行いながら、心配事や悩みなどをお聞きしています。

また、母乳育児の利点などを説明しています。

一週間後健診とは、退院後の助産師による保健指導の場です。赤ちゃんの体重・黄疸のチェックや授乳状態を確認しながら、産後のお母さんと赤ちゃんの経過が順調かを確認させていただきます。必要に応じて産科医や小児科医と連携して行います。



一週間後健診の様子

TOPICS ～母乳育児～

母乳は赤ちゃんにとって一番優れた栄養です。

母乳には新生児にとって必要な全ての栄養が含まれ、消化吸収にも優れています。

母乳育児のメリットとして、赤ちゃんには「栄養満点」「免疫物質がたっぷり」「あごの発育を促す」「母子の絆が深まる」など、またお母さんには「産後の回復が早い」「産後ダイエットに効果的」「経済的かつ実用的」「乳がんになりにくい」など、赤ちゃんにもお母さんにもメリットがたくさんある母乳育児にぜひチャレンジしてみませんか！

部門紹介

「本院看護部4階南病棟」



4階南病棟は、周産期センター内にあ
る小児科病棟であり、15歳未満の小児を
対象とした共有4床を含めた一般小児科
19床とNICU（新生児集中治療室）6
床の全25床の病床があります。

一般小児科で看護師1人あたりが受け
持つ患者さんの数は7人（7・1）であ
るのに対し、NICUは看護師1人あた
りに3人（3・1）であり、NICUで
はより集中治療を実践できる体制の人員
配置になっています。

産科と連携を図りながら母乳育児支援
をはじめ、患者さんと家族と共に向き合
い、家族中心の看護を目標に家族が積極
的に意思決定やケアに参画できるように
支援しています。

また、小児科病棟では家族と離れて寂
しい思い、不安な気持ちを抱えた入院患
者さんが特に多く見受けられるため、今
年4月から医師や看護師と連携して保
育士が遊びや生活支援のサポートを行っ
ています。さらに、院内ボランティアによ
る絵本の読み聞かせや病棟の掲示板に季
節に応じた飾りを作成し掲示しています。
不安なこと、疑問に思うことなどがあ
りましたら、お気軽にお声がけください。

赤ちゃんやご家族にとって安心で
きる環境を提供するために日々取り
組んでいます。

今年は10月8日（土）に「第2回
NICU卒業生の会」を開催予定です。

親同士の交流や遊びを通して楽し
んでもらえるように準備しています。

新生児集中ケア認定看護師
佐藤 恵



認定看護師とは

日本看護協会が策定した資格認
定制度の資格の一つであり、特定
の看護分野において、熟練した看
護技術と知識を用いて水準の高い
看護が実践できる看護師のこと。
高度化・専門分化が進む医療現場
における看護ケアの広がりや看護
の質の向上を目的としている。

設備のご紹介

NICU

NICU（Neonatal intensive Care Unit：新生児集中治療室）は、
新生児（生まれたばかりの赤ちゃん）に特化した専用の集中治療室のこ
とです。小さく産まれた赤ちゃんや病気を持った赤ちゃんを治療します。
一般の病棟よりも細菌感染を防ぐために厳重に管理されていて、赤ちゃ
んは個別に保育器の中で酸素や栄養をもらいながら治療を受けます。

ご家族は赤ちゃんと離れて不安な日々を過ごすと思いますが、その中
で少しでも不安が軽減されるように、タッチング（赤ちゃんに触れること）、カンガルーケア（赤ちゃん
とお母さんの肌が直接触れあうよう胸の中に抱っこすること）を行っています。

NICUにはファミリー室があり、退院が近くなるとご家族と同じ部屋に移して育児の練習を行い、安
心して自宅に帰れるようにサポートしています。



NICUフロア

制度や医療費の心配事など、お気軽にご相談ください。

医療ソーシャルワーカーに相談出来る事

医療や介護の制度を知りたい

健康保険、介護保険、身体障害者手帳、障害年金、生活保護など、医療や介護の制度について説明します。

退院後の生活が心配

患者や御家族のご希望を確認し、様々な関係者と相談しながら退院後に安心した生活を送れるよう、医療や介護サービスの調整を行ないます。

具体的ではないけれど… 色々心配、

どうすれば良いのか分からない。

相談内容の本質を探り、相談者と一緒に考え解決策を探します。相談者が自ら解決策を自己決定できるよう支援します。

在宅サービスや 転院先が分からない

患者様の状態に応じて、各職種と相談し、転院先のご紹介、自宅で利用するサービス等の提案をします。

医療費が支払えるか心配

通院や入院の自己負担が高くなならないように限度額適用認定証の紹介や、高額医療の還付、難病医療費助成制度など、利用できる制度や申請手続きをご案内します。

セカンドオピニオンについて 知りたい。

セカンドオピニオンの 申し込み方法について知りたい。

療養に関する不安、心配事ありましたら相談窓口へお立ち寄り下さい。

開設時間：平日8時30分～午後4時30分 当院1階（総合医療支援センター内）



退職を機に、ボランティア活動に参加し4年が経ちました。患者さんから感謝の気持ちを伝えられた時はとても嬉しく励みになり、引き続き活動してまいりたいという思いが強くなりました。
大友 寿代さん（ボランティア歴4年）

穂波地区に移り住み市民病院のボランティアを始めました。主治医から感染症に気を付けてと言われ、手洗い励行を心掛けています。これからも、患者さんの「ありがとう」を励みに頑張っていきたいと思えます。
池田 勲さん（ボランティア歴2年）

◎病院ボランティアさん大募集◎

活動内容 一例：病院内の案内・新患受付の手伝い、車いす移送補助、小児科病棟患者支援、ロビーコンサートなどの手伝い ほか

➡お気軽にお問い合わせください ㊟ 総務課総務係 TEL：0229-23-3311



こんなときは、
私たちボランティアに
声をかけてくださいね

- ・受付の仕方が分からない時
- ・院内の場所が分からない時
- ・車いすでの移動の時
- ・お手伝いが欲しい時
- ・…など

我が病院の

ボランティアさん



相談窓口には、6名の医療ソーシャルワーカーが常駐しており、患者様の経済的・心理的・社会的問題を一緒に考え、解決のお手伝いをしています。

例えばどのような相談があるの？

夫が脳梗塞で倒れてしまい、仕事復帰の目途が立たない。子供も小さいし夫の看病もありすぐには働けない。収入もないし貯金も少ない。これからの入院費や生活費はどうしたら良いだろう…。

傷病の為、仕事ができなくなった時に受けられる代表的な保障として**傷病手当金**の申請が検討出来るかもしれませんね。業務外の病気や怪我で働けない状態の為仕事を休み、給料が支払われない場合や給料が下がった場合、その間の生活保障をしてくれる所得保障・休業補償制度です。支給条件に該当しそうか一緒に確認しましょう。

何か利用できる制度はあるの？

生命保険は加入している？リハビリで回復の可能性もあり現時点では身体障害者手帳や障害年金は対象ではなさそう。傷病手当金に該当しない状況の場合、生活状況によっては一時的に生活保護も検討が必要だろうか？

地域の医療機関のご紹介

当院は、身近な医療機関と役割分担を図り、地域全体で切れ目のない医療を提供することを目指しています。こちらでは、日々当院と交流のある登録医療機関(かかりつけ医)をご紹介します。

小牛田内科クリニック

診療科目：

内科、人工透析、循環器内科
〒987-0004

宮城県遠田郡美里町牛飼字牛飼77-2

TEL:0229-32-5959

受付時間：

午前9時～午前11時30分

午後2時～午後4時30分

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	-
午後	○	○	○	-	○	-	-

●院長 菊地 哲先生



先生から
ひと言

当院における第一の特色は透析をメインに行っている施設であります。38床の透析用のベッドを有し、平均72名の患者さんを受け入れておりますが、最近の特徴として透析患者さんの第一位が糖尿病疾患の原因によるものです。当院では透析療法は日曜日のみ休診となっています。第二の特色は外来担当医師の数が多く、更にその平均年齢が高いことです。現在7名の医師が在籍していますが、全員が60歳以上のお爺さん医師で平均年齢は67歳です。その中からある規則に基づいてその日の担当医1名が決められています。詳しくは予定表がありますのでご利用ください。



●院長 岡村 智佳子先生

中川記念 ちか子女性クリニック

診療科目：

婦人科、産科、女性内科
〒989-6162

大崎市古川駅前大通六丁目1-23

TEL:0229-23-0655

URL:<http://www.nakagawa-sanfujinka.jp/>

受付時間：

午前9時～午後1時

午後3時～午後6時

※水曜日は午前9時～正午まで

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	-
午後	○	○	-	○	○	-	-

先生から
ひと言

当院は、1976年より中川産婦人科として開院し40年間、長きにわたり地域の皆さんとともに歩んでまいりました。3月1日から「中川記念ちか子女性クリニック」と改称し病院も新築しスタートしました。今後とも婦人科、産科(妊婦健診)、女性内科など幅広い世代の女性のヘルスケアに一層尽力していきたいと思っております。婦人科は受診しにくいと感じていらっしゃる方も多いと思いますが、小さな不調から深刻な病気が発見されることもあります。スタッフ一同、和やかな雰囲気をお大切に診療しておりますのでお気軽にご相談ください。

つながり

大崎市民病院広報誌「つながり」No.5
2016年5月発行
一次発行は2016年7月の予定です

大崎市民病院

大崎市民病院

検索

〒989-6183 宮城県大崎市古川穂波三丁目8番1号

TEL 0229-23-3311 FAX 0229-23-5380 URL <http://h-osaki.jp>